

旅行取扱状況の概観（令和元年12月分）

下記、月次取扱額は、近畿日本ツーリスト北海道、近畿日本ツーリスト東北、近畿日本ツーリスト関東、近畿日本ツーリスト首都圏、近畿日本ツーリスト中部、近畿日本ツーリスト関西、近畿日本ツーリスト中国四国、近畿日本ツーリスト九州、近畿日本ツーリストコーポレートビジネス、KNT-CT グローバルトラベル、KNT-CT ウェブトラベル、クラブツーリズム、ユナイテッドツアーズ、KNT 商事の合算額となります。

記

海外旅行の取り扱い、一般団体は前年比 88.8%と前年を下回ったが、学生団体は同 129.5%と前年を上回り、団体旅行合計で同 111.2%と前年を上回った。企画旅行については前年比 99.0%と前年を下回り、個人旅行については同 106.7%と前年を上回った。

この結果、海外旅行総取扱額としては、前年比 104.9%と前年を上回った。

国内旅行の取り扱い、一般団体は前年比 99.2%と前年を下回ったが、学生団体は同 108.6%と前年を上回り、団体旅行合計で同 105.2%と前年を上回った。企画旅行については前年比 88.6%と前年を下回り、個人旅行については同 85.5%と前年を下回った。

この結果、国内旅行総取扱額としては、前年比 93.4%と前年を下回った。

外国人旅行は、前年比 96.7%と前年を下回った。

以上の結果、ホールディングス主要会社の 12 月の総取扱額は前年比 98.3%となり、前年を下回った。

【区分別の状況】

1. 海外旅行

海外団体については、一般団体は、職場旅行などの取扱人数の増加や趣味・テーマ型の旅行の取扱単価が増加した一方で、視察や研修旅行などの取扱人数の減少により、前年比 88.8%と前年を下回った。学生団体は、修学旅行の取扱単価の増加および教育関連の派遣事業や留学支援事業などの取扱などにより、同 129.5%と前年を上回った。この結果、海外団体旅行合計で前年比 111.2%と前年を上回った。

海外企画旅行については、前年比 99.0%と前年を下回った。商品別では、ホリデイは方面別取扱人数の状況で、ハワイやヨーロッパ、台湾方面が好調に推移したが、アメリカ方面が不調であった。また、アジア方面では香港や韓国の低迷が続いているが、他の地域は堅調に推移している。クラブツーリズムは、ヨーロッパでは南欧（イタリア）、ロシア・バルト三国が堅調に推移した。北米も堅調に推移している。一方で、カナダ、中国、アジア（香港、韓国）は不調が続いている。東南アジアではカンボジア、ベトナムが復調したが、タイ、マレーシア、シンガポールは低調に推移することとなった。

以上の結果、海外旅行の総取扱額としては、前年比 104.9%と前年を上回った。

2. 外国人旅行

外国人旅行は、スポーツ関連の大会や合宿などの取扱が増加したが、個人旅行の宿泊商品が不調に推移し、前年比 96.7%と前年を下回った。

3. 国内旅行

国内団体については、一般団体は、災害支援事業などの取扱が増加したが、前年の大型 S I T の扱いや職場旅行などの取扱人数が減少したことにより、前年比 99.2%と前年を下回った。学生団体は、修学旅行や遠足などの校外学習、宿泊研修の取扱人数が増加したことにより同 108.6%と前年を上回った。この結果、国内団体旅行合計で前年比 105.2%と前年を上回った。

国内企画旅行については、前年比 88.6%と前年を下回った。商品別では、メイトは方面別取扱人数の状況において、北海道や東北、信州方面を中心に不調であった。クラブツーリズムは、方面別では、北海道（道南、道東）が堅調に推移した。東海・伊勢・南紀、北陸も堅調であった。一方で、東北（北東北、南東北）、関東、中部、関西、山陰・山陽、四国、九州、沖縄、離島は低調に推移することとなった。以上の結果、国内旅行の総取扱額としては、前年比 93.4%と前年を下回った。